



新任のご挨拶



看護部長 中山 智子

令和8年4月1日付で、国立病院機構千葉医療センター千葉東病院 看護部長を拝命いたしました、中山智子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

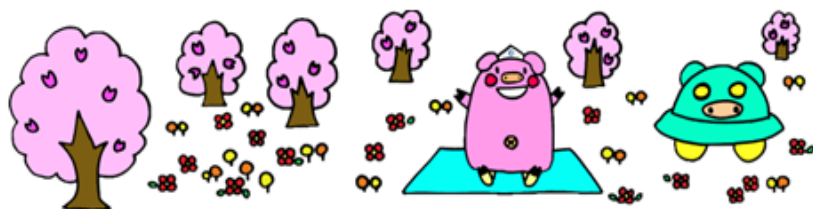
これまでは、神奈川県小田原市にありますが国立病院機構箱根病院 神経筋・難病医療センターにおいて3年間勤務し、神経難病看護に携わってまいりました。患者さんやご家族の声にならない思いに耳を傾け、静かにそばに寄り添い続けることの大切さを、日々の関わりの中で学んできました。

このたび、長い歴史と実績を重ねてこられた千葉医療センター千葉東病院の一員として勤務できることを心からうれしく思っております。当院看護部の理念である「患者様の人権を尊重し、心の通い合う看護を目指す」という考え方は、私がこれまで大切にしてきた看護観と深く重なっています。これまでの経験で培った“寄り添う看護”の姿勢を大切にしながら、この理念を日々の実践につなげていきたいと考えております。

近年、医療の現場では、AIをはじめとした医療技術の進歩が目覚ましい時代となりました。しかし、AIにはできないことが看護にはあると感じています。それは、患者さんのわずかな表情やしぐさの変化に気づく力、不安やつらさを感じ取る感性、そして人として相手を支える温かさです。こうした「人にしかできない看護」の価値を大切に、看護職一人ひとりが自分の力を十分に発揮できる環境づくりに努めてまいります。

私はこれまでの看護の歩みの中で、「人を支える強さ」とは決して特別な力ではなく、誰かの痛みに気づき、そばに居続ける覚悟なのだと感じてきました。多くの方に親しまれている『鬼滅の刃』という物語の中には、「弱い者を思い、守るために自分が何をなすべきか」を問い続ける姿が描かれています。困難な状況の中でも、人を想う心を失わず、仲間と支え合いながら前に進むその姿は、看護の現場にも通じるものがあると感じています。

看護は決して一人で成り立つものではなく、互いを思いやり、対話を重ね、支え合うことで、より良い看護が育まれていくのだと思います。患者さんにとっても、職員にとっても「この病院でよかった」と感じていただけるよう、皆さまと共に歩んでいきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



放射線科だより：新MRI装置「SIGNA Creator」導入のお知らせ



診療放射線技師長 田村 正樹

～最新AI技術「AIR Recon DL」による画像診断の革新と地域連携の進化～



陽春の候、地域の医療機関の先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より当院の診療活動および地域医療連携に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は昨年度より「千葉医療センター千葉東病院」として、地域の基幹病院ならびに専門医療の中核を担うべく体制強化を図っております。このたび放射線科では、より高精度かつ迅速な画像診断を目的に、**GE社製1.5T MRI装置「SIGNA Creator」**を導入し、本年3月より本格稼働を開始いたしました。

1. 新装置導入の背景：専門領域の進化と診断精度の追求

当院の大きな強みである脳神経内科領域では、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経変性疾患、さらには「物忘れ外来」における認知症の早期診断など、極めて高い客観性が求められる画像診断が日常的に行われています。また、腎臓内科においては、保存期から透析導入期、移植後管理に至るまで、多角的な病態評価が不可欠です。さらに、当院が注力しているリウマチ・アレルギー科においても、関節リウマチの早期診断における滑膜炎の評価や骨エディマ（骨浮腫）の検出は、治療戦略を立てる上で非常に重要な役割を担っています。これら多岐にわたる専門領域、および地域の先生方からご依頼いただく多種多様な症例において、より精密な診断情報を迅速に提供するためには、画像診断装置の刷新が急務でありました。今回導入した「SIGNA Creator」は、最新のデジタルプラットフォームを基盤としており、従来の装置では描出が困難であった微細な組織構造を可視化することで、より確かな診断根拠を提示することが可能となりました。

2. 最新AI技術「AIR Recon DL」による高画質化と短時間化

本装置の最大の特長は、GE社の最新AI技術による画像再構成アルゴリズム「AIR Recon DL」を搭載している点です。従来、画質向上と検査時間短縮はトレードオフの関係にありましたが、本技術ではディープラーニングを用いてノイズ成分を高度に除去し、信号強度を保ったまま鮮鋭度を向上させることが可能となりました。これにより、1.5T装置でありながら高精細な画像と検査時間の短縮を両立し、長時間の静止が困難な患者さんに対しても負担を軽減しつつ、質の高い診断情報を提供できます。

3. 全身領域に対応する多彩なアプリケーション

本装置は、脳神経・脊椎から体幹部、関節領域まで、幅広い検査ニーズに対応可能です。脳・脊髄では微細な病変の描出、体幹・骨盤領域では呼吸同期技術による安定した画像取得が可能となっています。また、非造影での高精度なMRAにより、腎機能障害やアレルギーを有する患者さんにも安全な血管評価が可能です。さらに、金属アーチファクト低減技術「MAVRIC SL」を搭載し、人工関節術後や関節リウマチの評価など、整形外科領域にも有用な検査を提供しています。

4. MRIと核医学検査の同日予約による診断精度の向上

当院放射線科では、核医学検査において豊富な実績を有し、脳血流シンチグラフィ、DaTスキャン、MIBGシンチなどを中心に多くの地域からのご依頼をいただいております。

新MRI装置の稼働に伴い、MRI検査と核医学検査の同日予約を積極的に受け入れており、形態評価に優れたMRIと機能評価に優れた核医学検査を組み合わせることで、診断の確信度向上と診断までの迅速化を実現しています。患者さんの来院負担軽減にもつながる体制です。

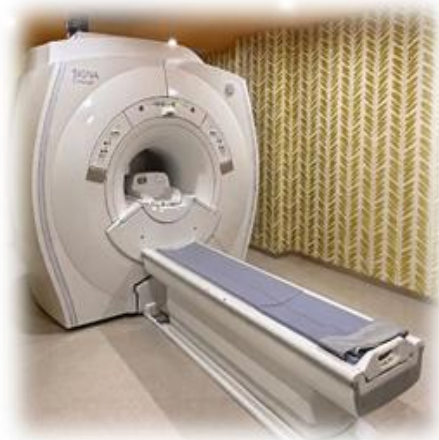


5. 地域医療連携室を通じた円滑な検査依頼

当院では、MRIに精通した診療放射線技師が、ご依頼目的に応じた最適な撮像プロトコルを構築しています。検査予約は地域医療連携室を窓口としており、スムーズな予約対応が可能です。お気軽にお問合せください。検査後は画像および診断結果を迅速にご提供し、先生方の多様な診療ニーズにお応えします。

6. 結びに代えて

AI技術を搭載した新MRIと専門性の高い核医学検査の連携は、地域画像診断における大きな支援となるものと考えております。当院放射線科は、これらの医療資源を地域の共有財産として活用し、先生方の診療を支えるパートナーであり続けたいと考えております。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



千葉東病院公認キャラクター『ちぼとん』

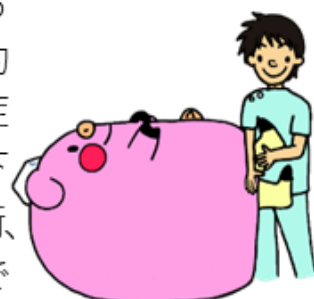
リウマチ・アレルギーセンター長 中澤 卓也

当科では、関節リウマチや全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎／多発性筋炎、シェーグレン症候群、血管炎症候群などの膠原病、さらにアレルギー疾患（気管支喘息を除く）を対象に専門的な診療を行っています。

これらの疾患は免疫の異常によって全身の臓器に炎症が生じ、多彩な症状を呈することが多いため、早期発見と継続的な治療が重要です。当科では問診と診察に加え、血液検査や画像検査を組み合わせ、病態を総合的に評価し、早期診断につなげています。近年の治療の進歩により、特に関節リウマチでは適切な時期に治療を開始することで、症状を抑えながら日常生活の質を大きく損なわずに過ごすことも可能になりました。



長い病歴をお持ちの方や、複数の合併症を抱える方に対しても、生活背景やご希望を伺いながら治療方針を共有し、納得して続けられる医療を重視しています。抗リウマチ薬や免疫抑制薬に加え、生物学的製剤や分子標的薬などの選択肢を適切に組み合わせ、副作用や感染症の兆候を慎重に確認しながら治療を行います。関節の変形や機能低下が進行している場合には、整形外科と密に連携し、保存療法から手術、術後のリハビリまで一貫した治療をご提案します。また、一般病院では診療が難しい重症例にも対応できるよう、20床の入院病床があり、急性期から回復期まで切れ目のない支援を行っています。



患者さまが病気を理解し、自分らしい生活を続けられるよう、リウマチ・膠原病教室などの学習機会も設けています。薬の使い方や生活上の工夫などを分かりやすくお伝えし、治療継続をサポートします。さらに、当院には千葉市難病支援センターが院内に設置されており、医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフなど多職種が連携し、療養や社会制度の活用に関する相談にも対応しています。関節の痛みや腫れ、発熱、皮疹、息切れ、口や目の乾きなど、気になる症状がある方はお気軽にご相談ください。受診方法や診療日時の詳細は当院ホームページをご覧ください。

Instagramにて千葉東病院看護部公式アカウントができました！

当院でのイベントや日々の業務等発信して参りますので、フォローしていただければと思います！



ちばとん

NHQ_CHIBAEASTHOSPITAL_NURSING